発行
大島郡医師会
奄美市名瀬塩浜町３－10
TEL0997－52－0598
FAX0997－54－0597
印刷 南海日日新聞社

# 大島郡医師会だより

No.101 2024.4月号

医師会病院
虹の丘
訪問介護事業所
訪問看護ステーション
居宅介護支援事業所
グループホーム虹の丘
養護老人ホームなぎさ園
臨床検査センター

## 開業18年で思うこと

大島郡医師会
副会長 嘉川 潤一

皆様、お疲れ様です。本来なら、医師会の展望などを書くべきですが、今回題名は自由とのことですので、開業して18年目になりますが、最近思うことを書かせていただきたいと思います。

去年、咽頭の病気で、２ヶ月程入院したのですが、やはり思うことは健康第１ということです。今でも体調は万全でなく、稲会長を初め、多くの先生方、スタッフの方にも御迷惑をおかけして申し訳ありません。放射線治療は照射しているときは感じませんが、後から効いてくるもので、のどの痛み、味覚障害、嚥下障害、嘔吐など体力を消耗してきます。今でも、声がでず、味覚障害もあり、アルコールの旨味がわからないのは悔しい。

私は瀬戸内町古仁屋出身で古仁屋小学校、名瀬中学校、医師になってからは鹿児島大学病院消化器内視鏡グループに20年程勤務していました。昭和60年に入局したのですが、当時の二内科は36名の入局者で研修医があふれ、私は県立大島病院へ研修医として赴任しました。当時県病院は研修医のシステムはなく、私が研修医第１号で、そのときの内科部長が眞田先生でした。その後平成４年には、県病院の消化器内科部長で２年間赴任しました。

当時、私は大学病院でＥＲＣＰ（内視鏡的逆行性膵胆管造影）ＥＵＳ（超音波内視鏡）の腕を磨いていました。２０００年に消化器内科、特にＥＲＣＰ、ＥＵＳで有名なサウスカロライナ大学病院へ留学し、特にＥＵＳ下穿刺術などを学びました。旅行が大好きでワゴン車を購入し、北はワシントン、ニューヨーク、ボストン、トロント、ナイアガラ、南はフロリダ、キーウエストなど、東海岸を車で制覇しました。英会話のできない私は家族５人（幼い子供３人）を抱え、今から思うと無謀な留学でありましたが、楽しい思い出です。

県病院は消化器内科医が不在の時期が数年ありました。外科の先生が代わりにＥＲＣＰ検査なども行っていました。私は月に一度県病院へ呼ばれ、外科の先生方ができなかった症例を含め、その検査数、内容はハードなものでした。

その後、消化器内科が復活するとのことで後輩の誰が赴任するのか楽しみにしていたところ、私が指名され驚きました。県病院を手伝っていた私が目に止まったのでしょう。20年も大学に勤めて助手にすらなれない私は１年間県病院を勤めた後、奄美での開業を決意しました。少し遅すぎましたが46歳で開業すると、バイトでやっていた大腸内視鏡検査がメインとなり、得意であったＥＲＣＰ、ＥＵＳができないことは今でも寂しく思います。体力的に外来をやりながらの胃内視鏡検査はそれほどでもないが、毎日大腸内視鏡検査４名は最近しんどく感じます。おかげさまで今までに胃内視鏡約２万３千例、大腸内視鏡約１万５千例行い、月に１例ほどの頻度で、胃癌、大腸癌がそれぞれ見つかっています。私は40歳以上の方は一度大腸内視鏡検査を受けた方が良いと思っています。便潜血陰性で安心するのはどうかと思います。ポリープが出血することはなく、特に早期癌はほとんど出血することはなく、特に今まで一度も大腸内視鏡検査を受けたことがない方、特に男性の方は受けた方が良いと思います。高率に何かあることが多い。

島の医療で思うことは今まで医師会の仕事（理事、会長など）をされてきた先生方を尊敬します。昔の先生方は団結力があり、医師会病院、虹の丘、なぎさ園など現在の医師会の基礎を作り上げて来られました。それだけ忙しい中にも経済的に余裕があったのではないかと思います。今は多くの先生方が自分の病院の経営だけで精一杯だと思います。

私の父も瀬戸内医院を開業しており、長年医師会の理事もやっていました。医師会の会議があると、うれしそうに古仁屋から名瀬へ出かけていました。当時は道も悪く、４時間程かかったかと思いますが、会議後の飲み会が楽しかったのでしょう。毎年医師になる数は変わらないが、地方での医師の数が減ってきており、子供を医師にしてもなかなか島には帰ってきません。実際、喜界島、与論島に続いて、奄美の開業医も少なくなっています。島外から、島で開業、勤務される先生方は貴重な存在です。今は開業するのに、昔の２・３倍資金もかかるらしい。働き方改革は開業医にはなく、少し働き方を楽にすると赤字になり、働きすぎるとトントンにはなるが、体がきつい。大きな総合病院は残るのでしょうが、開業医は少なくなる。行政から依頼される検診、産業医、学校医など将来医師会の先生方でできるのでしょうか。人口も少なくなり、仕方ないのか薬剤師、介護士などの医療従事者も少なくなっています。

医師会は医師会病院などの経営、数年後の新築病院移転、会員数の減少、地域医療構想、災害時の対策、血液製剤備蓄など問題は山積しています。10年後の島の医療はどうなっているのでしょうか。なるようにしかならないのでしょうか。

ところで皆さん、内科医会をご存知でしょうか。この会は学術の向上、内科医業経営の合理化および医政の研究を行い、併せて会員相互の親睦を図ることを目的として発足しており、私は評議員を勤めております。会員数は鹿児島県では約４００名、大島郡では10名ほどで、令和４年には向井先生がこの会の地域医療功労賞を受賞されています。興味のある先生方は医師会事務局へ問い合わせをお願いいたします。

# 令和5年度 第102回臨時総会

去る3月2日(土)に第102回臨時総会が午後6時から医師会館4階にて開催され、総会の前に先月(2月14日)にご逝去された嶺山隆司先生のご冥福を祈り黙祷が捧げられた。

嘉川副会長が会員総数83名出席者数75名(委任状含む)で会員総数の過半数を超えており本会は成立することを宣言された後、稲会長が「本日の臨時総会に参加くださいましてありがとうございます。いろんな職能団体や行政との会合で、いつも話題になるのはその地域で買い物ができないとか、ヘルパーさんがいないとか在宅医療ができないなどの話題です。特に奄美市以外では、高齢者の割合が増えている。実際には高齢者が増えているのではなく15～65歳未満の生産年齢の人口が減っているということです。これまでにそれぞれの地域での人口の多い時代に作り上げた体制があり、それを継続するのはもう難しいのではないかと思います。小さくなった状態での新たな街作り、体制作りをしなくてはいけないという様なことを話しています。これからは、定年され再雇用の65歳まで働くのではなくて可能であればそれ以上働いて欲しいと思っております。また、地域での専門医の偏在、耳鼻科や小児科の医師のことがあります。耳鼻科は大野先生が現在医師会病院で働いてもらっていますが、今後耳鼻科の体制作りを医師会としても考えているところではあります。可能であれば本島内だけでなく大島群島内の学校保健、以前大山勝先生が離島の巡回診療を行っていたように、耳鼻科医を必要とする離島の巡回診療までできたらと考えています。政医院の廃院による小児科医の減少に関しては新規介入っていうのはなかなか難しいとは思います。県病院小児科、奄美中央病院の小児科医に乳児健診を含めてお願いしていきたい。県病院には、『小児科だけではなくて小児健診を含めた地域医療に参画していただけないか』というような嘆願書を院長宛に提出し、お願いしています。まだ返事はいただいていませんが、そういった地域医療にかかわってくれる医師を増やしていきたいと考えています。また、開業希望の先生がいらしたらお手伝いもしていきたい。そういった地域の医療体制作りを医師会として支えていきたいと考えています。本日の総会は予算の議案がいくつかございまして、あと、代議員予備代議員の選出等大切な議案もございますのでご審議のほどよろしくお願いします」と挨拶された。その後、加納先生を議長に選出し議案審議に入った。

**【審議事項】**

(1)・第1号議案　令和6年度大島郡医師会事業計画(案)

(2)・第2号議案　令和6年度大島郡医師会一般会計収支予算(案)

(3)・第3号議案　令和6年度大島郡医師会特別会計収支予算(案)

(イ)大島郡医師会病院収支予算(案)

(ロ)介護老人保健施設虹の丘収支予算(案)

(ハ)臨床検査センター収支予算(案)

(4)・第4号議案　令和6年度公益社団法人大島郡医師会収支予算(案)について

(5)・第5号議案　鹿児島県医師会代議員及び同予備代議員の選出(案)について

(6)・第6号議案　理事の解任について

(7)・第7号議案　法人規程の一部改正について

**【報告事項】**

(1)・令和6年度なぎさ園の収支予算(案)《渡なぎさ園施設長報告》

**【審議結果】**

第1号議案から第4号議案の令和6年度収支予算(案)は、各担当者から説明の後、原案通り可決承認された。第5号議案の鹿児島県医師会代議員及び同予備代議員の選出については、前期同様、代議員に稲源一郎先生(会長)、嘉川潤一先生(副会長)、予備代議員に津畑修先生、宮上寛之先生を選出することが承認された。第6号議案の理事の解任及び第7号議案の法人の規程改正については原案通り承認となる。その後嘉川副会長が報告事項について進行し、なぎさ園の令和6年度収支予算(案)について渡施設長から報告があり、19時05分閉会を宣言した。総会終了後、県立大島病院の麻酔科部長の大木先生から血液備蓄所の再設置に向けた働きかけをポスター・チラシ等作成し発信していきたいとの報告があった。大島郡医師会だけでなく鹿児島県医師会にも賛同していただきたい旨の意見もあり、これに対し稲会長から大島郡医師会としては賛同し協力していく旨の回答があった。

## 令和6年度人事異動
(令和6年4月1日付)

◆昇　格◆ 医師会病院
保　裕寿　総務課総務係長

◆昇　格◆ 虹の丘
碇山こずえ　給食部主任
(管理栄養士)

# 令和5年度第3回定時理事会

去る2月3日(土)、令和5年度第3回定時理事会が、午後6時から医師会館4階にて開催された。

嘉川副会長の開会宣言に引き続き稲会長が「まず今年元旦の能登半島での地震に際してお亡くなりになられた方にご冥福をお祈り申し上げます。昨日、令和5年度第2回奄美地域保健医療福祉協議会が3年ぶりに対面で開催されました。その会でも災害のこと、血液備蓄所の事も話題に上がりました。供給元の日本赤十字社と血液備蓄所候補としての県立大島病院とのすり合わせが必要で、血液備蓄所のみの選択肢でなく、ブラッドローテーション若しくは備蓄所再開設の方向性で考える方が現実的であるが、大島郡医師会が主導して行うのではなく、地域住民へ周知し、地域住民と行政と共に医師会として進めていきたい旨を、市長及び大島郡町村議会議長会長・大島郡町村会長の方にお願いをしました。また、開業医の減少が話題となりました。急に開業医医師が増えるということは無いので、当分は少ない体制で可能なことを施行していくしかないと思っています。県立大島病院ほか、若手医師で開業したい先生がいるのであれば大島郡医師会として応援していきたいという話をしました。地域医療構想に関しては、病床は、合意しているが、県立大島病院の回復期病棟開設についてはまだ合意に至ってなく、3月末までには返事をする旨を石神院長に伝えてあります。その他精神科の問題がありまして、離島の精神医療体制が整っていないと保健所長より報告がありました。精神科医の不足等により、受診が困難で、治療出来てない状態で入院をさせなければならない事例が結構あるようです。また、措置入院が本島の奄美病院しか出来ない状況、そういった問題を解決しなければいけないという話題でした。今回は第3回の定時総会ですが、議案としましては令和6年度事業計画や予算案の議案等を含めて第8号議案までございますのでご審議よろしくお願いします」と挨拶された。その後、会長を議長として議案審議に入った。

**【審議事項】**

(1)・第1号議案　令和6年度大島郡医師会事業計画(案)

(2)・第2号議案　令和6年度大島郡医師会一般会計収支予算(案)

(3)・第3号議案　令和6年度大島郡医師会特別会計収支予算(案)

(イ)　大島郡医師会病院収支予算(案)

(ロ)　介護老人保健施設虹の丘収支予算(案)

(ハ)　臨床検査センター収支予算(案)

(4)・第4号議案　令和6年度公益社団法人大島郡医師会収支予算(案)

(5)・第5号議案　鹿児島県医師会代議員及び同予備代議員の選出について

(6)・第6号議案　理事の解任について

(7)・第7号議案　公益法人検査指導に伴う規程改正について

(8)・第8号議案　第102回臨時総会日程について

**【報告事項】**

(1)　各担当理事からの報告について(資料添付)

(2)　令和5年度なぎさ園の収支予算(案)《渡なぎさ園施設長報告》

**【審議結果】**

第1号議案から第4号議案の令和5年度収支予算(案)は、各担当者から説明の後、原案通り可決承認され総会に提案することとなった。第5号議案の鹿児島県医師会代議員及び同予備代議員の選出については、前期同様、代議員に稲源一郎先生(会長)、嘉川潤一先生(副会長)、予備代議員に津畑修先生、宮上寛之先生を選出する。第6号議案の理事の解任及び第7号議案の公益法人検査指導に伴う規程改正については原案通り承認となる。第8号議案の臨時総会は、3月2日(土)18時から医師会館4階にて開催することが承認された。

# 大島地区消化器集団検診研究会からの活動報告

皆さま、うがみんしょーらん！覚えていますでしょうか？！昨年度もこの会の報告をさせてもらいました宇検診療所の惠　浩一です。今回は、令和5年度の活動報告をさせていただきます。令和5年度は2カ月毎に研究会を開催し、県立大島病院の消化器内科・外科の先生を中心に症例の報告をいただき、地域医師会の先生方との間で、様々な消化器疾患に対する知識を深めることができました。2月22日(木)は、今年度最後の研究会が開催されました(※写真参照)。会終了後には、約4年ぶりに懇親会を行い、数年毎に異動のある県病院の先生方とも顔がみえる関係を築くことができ、大変有意義な時間となりました。さて宇検村では、ある時期に幼児が10円玉を誤飲するケースが起きてしまいましたが、速やかに県立大島病院の小児科、消化器内科と連携を図り、内視鏡を使用し取り出していただきました。これは、顔の見える関係ができるこの研究会での繋がりの賜物であることを、とても感じた瞬間でもありました。ぜひ来年度は、外部講師を招聘した研究会も企画したいと考えております。関係各位の皆様、令和6年度もどうぞよろしくお願いいたします。

# 「能登半島地震」支援活動への参加報告

JMAT（日本医師会災害医療チーム）大和村派遣団

現在、能登半島では今までの震災にないような大変なことが起きています。発災直後に約 5000 人の方々が金沢市以南に避難しました。施設や病院の入所者のほとんどが避難したことにより、若い人たちの働く場所も減っています。日本では高齢化率は上昇していますが、多くの市町村では既に高齢者人口は減ってきています。高齢者人口が減ってくると、高齢者を対象とした病院や施設などの経営が立ち行かなくなり若い人たちの働く場所がなくなります。働く場所がなくなると若い人たちは都市に流出し、子供が減ります。そうして学校やスーパーマーケットといった社会インフラが減り益々住みにくくなります。このように今後の日本において 20～30 年かけて起こりうることが、能登半島地震発災後わずか 2～3 日で起きてしまったのです。

さて我々は、2024 年 2 月 8 日から 13 日まで JMAT（日本医師会災害医療チーム）として能登半島地震の支援に参加しました。隊員は中島繁（救命士：大和消防）、元山淳子（看護師：大和診療所）、藤村まりな（保健師兼ロジ：大和村役場）、小川信（医師：大和診療所）の 4 人です。JMAT は各チームが 3 日程度、交代で支援に入ります。通常、病院単位で参加することが多く、我々のように自治体単位で参加することは稀です。しかし自らの地域が被災した場合、自治体が災害対策本部を統括し、他からの支援を受け入れることになります。そのため自治体単位で JMAT 参加することは意義があると思われます。

我々が派遣された輪島市門前町は 4,618 人（2024 年 1 月 1 日時点）で高齢化率は約 46% です。電気は復旧していましたが、水道はまだ復旧しておらず、気温は -1～+5℃と寒い中の支援でした。能登半島で多くの高齢者施設入所者が避難したにもかかわらず、門前町はほとんどの入所者が残っていました。そのため支援に入る我々にとっては忙しく、やりがいのある地域でした。

我々は JMAT 門前支所の統括業務を担当しました。具体的には、毎日のように新しく来る JMAT チームへのオリエンテーション、他 JMAT の仕事割り振り（往診や発熱外来など）、他機関との連携（JMAT 本部・支部、門前支所災害対策本部、地域包括支援センター、DHEAT: 保健所からの支援チーム、NGO:Japan Heart などの民間支援団体など）、データベースやマニュアル作り（褥瘡治療や在宅医療など）です。特に基幹病院の退院支援のため、在宅医療の立ち上げには力を入れました。

JMAT の目的は開業医を助け、地域を守ることです。3 月 16 日に北陸新幹線の金沢～敦賀間が開通するに伴い、金沢市以南で避難所利用されていたホテルが使えなくなります。すると避難所を退所した医療ニーズが高い方々が能登半島へ帰ってきます。そのときに医療機関が機能できるよう、今後も開業医の支援を続ける必要があります。

最後になりますが、我々を派遣してくださった医師会や大和村の方々、不在時に代診を引き受けて頂いた県立大島病院の方々に感謝致します。支援を通じて多くのことを学ばせて頂きました。阪神大震災、東日本大震災と多くの地震を経験してきた我が国はまた新しい問題を突き付けられています。必ずや問題を解決し、また一歩前進できると信じて止みません。

《国民健康保険大和診療所・所長／小川　信》

# 「奄美ワクチンセンター関係者 合同慰労会」を開催しました

本年1/17（水）に、これまで新型コロナウイルス感染症予防のための住民等向けワクチン集団接種業務に従事された関係者（医師会奄美支部の先生方、地域の看護師、行政関係者）等、約80名が一堂に会し、市内の集宴会場にて合同慰労会を開催しました。

開会後、岩城 陽一 理事（当医師会予防接種担当）から謝辞があり、続いて奄美市の安田壮平市長よりご挨拶と労いの言葉をいただきました。

会では、多くの参加者が労いの言葉を交わし、絶え間ない歓談の中、龍郷町の竹田町長からの閉会挨拶をもちましてお開きとなりました。

（乾杯音頭での一言の様子：稲 源一郎 会長）

# (祝) 朝戸先生 医療功労賞中央表彰受賞

## 朝戸医院（和泊町）

## 朝戸末男 先生

地域の医療に長年貢献した人をたたえる「第５２回医療功労賞」（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、ＪＣＲファーマ協賛）中央表彰を、朝戸末男先生（朝戸医院・和泊町）が受賞されました。

先生は東京の医療機関勤務を経て、１９８２年に古里で外科系診療所を開設。「（島内での）自己完結的な医療」を掲げ、ＣＴ（コンピューター断層撮影装置）やマンモグラフィーなどの設備を導入。眼科、乳腺科の外来診療も始め、沖永良部島の医療サービス向上に貢献されました。また、2012年～2020年までの８年間、大島郡医師会の理事として医師会運営にご尽力していただきました。

３月15日、朝戸先生は、東京都内で開かれた表彰式に出席され、「式典後は皇居に夫婦で参内して天皇・皇后両陛下に拝謁しました。お二人にお声かけいただき数分間お話ししましたがとても穏やかでお優しいお声でした」と話されていました。この度は誠におめでとうございました。

# 就任2年目のテーマ

## 大島郡医師会病院
### リハビリテーション室
### 室長　坂元　秀行

大島郡医師会病院リハビリテーション室の室長に就任して一年が経過しました。私が最初に当院へ入職したのは平成8年です。リハビリテーション室の助手として2年勤め、専門学校へ進学。卒業後に作業療法士として入職しました。一旦は当院を離れ、訪問看護ステーション勤務や精神科病院勤務を経たのち、再入職して現在に至っています。

室長として最初の全体ミーティングでスタッフに約束させていただいたのは、「療法士一人ひとりが純粋に治療に取り組める環境をつくる」ということでした。一年経ちましたが、まだまだ途中の段階です。

リハビリテーションに従事する療法士の仕事は、スマートに操作主義的に取り組めるものではないということを経験的に学んできました。疾病や受傷などを転機に人生が大きく変わろうとしている対象患者に対して、機能回復や生活能力の再獲得といった重要な要素を担うわけですから当然のことです。療法士は悩み苦しみながら、それでも前のめりになって課題解決、潜在的可能性の具現化を追及しなければならない場面に直面することが多々あります。どれだけ経験を積んでも、個々の担当患者の人生をわかったふりはできないのです。それでいて、数学のように誰が見ても正解という答えがありません。

私が作業療法士となって日が浅い頃のことです。他の病院でおこなわれた研修会に参加しました。研修の内容はよく憶えていませんが、その病院の院長先生が最後に言われた言葉を今でも忘れられません。「魂と魂とがぶつかり合うようなリハビリをしてください」と言われたのです。その言葉に、自分自身が選択した職種の重みとやりがいを感じました。当時は作業療法士1名という状況になることもあり、経営から求められる実績と作業療法士として担当患者に果たすべき役割との狭間で苦しんでいた時期でもあります。それだけにあの院長先生の言葉が響いたのかもしれません。その後の臨床において、目先の困難な状況ではいつもあの言葉を自分自身の「理念」として思い返し、活用してきました。

冒頭に述べた「療法士一人ひとりが純粋に治療に取り組める環境」づくりは、対象者への適切なサービス提供を可能にするだけでなく、提供する療法士の成長を促進、リハビリテーション室全体の質を向上させる効果があると予想できます。そして、結果的には医師会病院の「理念」に則した地域貢献を実現できるものと信じています。対象者と提供者と地域の「三方よし」ということです。人員不足や人口減少など、医療・介護を取り巻く状況はさらに厳しくなっていくと言われますが、そのように困難な状況が予想される場面でこそ、個人・組織レベルで「理念」を軸とした柔軟な対応が必要だと考えています。

2年目を迎えた本年度も、室長業務、作業療法士としての業務に加え、引き続き「療法士一人ひとりが純粋に治療に取り組める環境」づくりに取り組んでいきたいと思います。

# 【第57回地域包括ケア交流会※偶数月第4月曜開催】

## テーマ:「昭和の医療を振り返る」

奄美群島日本復帰70周年記念

開催日時:令和5年12月25日(月)18時30分～20時　於:大島郡医師会館4階ホール

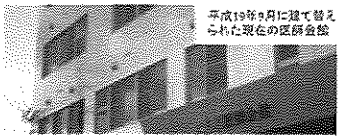
1. 講話:「昭和の医療を振り返る～思いつくままに～」

講師:大島郡医師会元会長　喜入　昭　医師

2. 植木鉢図を使った意見交換(グループワーク)

～喜入先生の講話を聴講し印象に残ったこと、2023年を振り返り、2024年に向けての抱負など～

特別ゲストの喜入昭先生



問合せ先:大島郡医師会
在宅医療連携支援センター
(TEL0997-55-6381)

令和5年12月25日(月)に第57回地域包括ケア交流会が開催されました。当日は偶然にも「日本復帰記念の日」(奄美群島日本復帰７０周年)にあたることから、特別ゲストとして、新型コロナウイルス感染症対策や特定健診など医師会の様々な活動にご協力いただいている元大島郡医師会長の　喜入　昭　先生をお迎えし、「昭和の医療を振り返る～思いつくままに～」と題した講話と、多職種での意見交換を行いました。

喜入先生は、「昭和の医療」を切り口に、お父様の喜入直治先生がご活躍された米軍統治下時代の奄美の医療(大島中央病院時代※現在の県立大島病院、喜入診療所開設の様子、奄美和光園園長兼務時代について)の様子等をお話してくださいました。それから、昭先生の幼少時代、日本復帰前後の出来事、医師を志し臨んだ当時の医師国家試験、東北地方や鹿児島本土での病院勤務や、奄美大島に戻られ県立大島病院を経て喜入内科での診療に至るまで、その頃からの医療の移り変わり、当時の胃透視等の検査方法や、流行病、また民間療法等も含め、興味深いエピソードをたくさんお話してくださいました。喜入先生の楽しい語り口に、参加された方々も惹きつけられっぱなしの時間となりました。意見交換では、今の奄美の医療が、先人の先生方のご尽力の上に成り立っているということを実感したという声などが多く聞かれました。

---

# 【第58回地域包括ケア交流会※偶数月第4月曜開催】

## テーマ:「奄美市つながる相談窓口について」

開催日時:令和6年2月26日(月)18時30分～20時　於:大島郡医師会館4階ホール

1. 講話:「つながる相談窓口を通して感じること」

講師:奄美市保健福祉部参事兼つながる相談統括監　島名　博美　保健師

2. 植木鉢図を使った意見交換(グループワーク)

～講話を聴講し、もっと知りたい情報、自分の役割について、連携したい機関や職種は？～

令和6年2月26日(月)に第58回地域包括ケア交流会が開催されました。今回は複雑化・複合化した困りごとへの支援に取り組まれている奄美市の「つながる相談室」の活動紹介として、「つながる相談窓口を通して感じること」と題した講話を、奄美市保健福祉部参事兼つながる相談統括監の島名博美 保健師からお話をいただき、その後、多職種による意見交換を行いました。

令和4年4月に設置された「つながる相談室」ですが、あらゆる困りごとへの迅速・的確な対応を、チームとして積み重ねてこられたその活動について、立ち上げ当初から関わっておられる島名さんから2年間の歩みや、具体的な活動内容、その対応方法などを通して見えてきたことについてお話がありました。複雑化する社会の問題に向き合い、縦割りを超えた支援体制を築くために前向きに取り組まれている姿勢が、医療介護連携の分野でも大変参考となるメッセージを数多くいただきました。講話の冒頭では、奄美市に寄せられた声として、在宅で最期を看取ったご家族から、在宅医療や介護、福祉のサポートがあり心強かったという主旨のコメントも紹介されました。後半の意見交換では、それぞれの職種や立場から、もっと知りたい情報や、本日の内容を踏まえた自分の役割について、連携したい機関や職種について活発な意見交換がなされました。参加された方からそれぞれの役割を知ることで自分の視野が広がる、といった感想等が寄せられました。

# 奄美の薬草

薬草研究

奄美の自然を考える会顧問　田畑　満大

## ＜ゲッキツについて＞

各地方や集落方言名で、インギ（加計呂麻島）、カイグチギ、カンギー、ギィチギィ、ギチギ、ギッチギ、ギヤギ、ディケィツゲィ、デケィツゲィ、デエケィチキ、デキチィ、デキヅ、デッタギ、デツツキ、デツッキ、デンギ、デンギッ、リクイギ（奄美大島）、ギッキツ（沖永良部島）、ギンギ（請島）、ギンギチ（徳之島、沖永良部島、与論島）、リンギィチィ、リンギィーチィ（岡前、松原）デンギッ（奄美大島、与論島）、デンギチ、デンギツ、リンギチ（与論島）、デッチュー（喜界島）などと呼ばれ、屋敷林、生垣などに利用されている樹木です。ミカン科ゲッキツ属ゲッキツ（月橘）、和名由来は、月夜に花がよく香るためだと言われています。「南島雑話」に名越左源太さんもゲッキツの事を「九里花」と書いてありますが、花の香が遠くまで香りを放っていることからでしょうか。

奄美大島以南、沖縄から東南アジアにかけて分布しています。奄美大島が北限になる貴重な植物です。葉は奇数羽状複葉で艶があります。幹や枝は白っぽく表面が滑らか、花はミカンなどに似て白く、夏に開花しジャスミンに似た芳香を放ちます。果実は直径１㎝ほどで赤く熟し食べられます。この樹木の材は、極めて硬く、緻密で絹状の光沢があります。この材を、彫刻や、ステッキ、刃物や農具の柄、文鎮、印鑑、櫛などに用いられたとのことです。奄美群島内では、屋敷林（暴風対策）や生垣として多くの集落で用いられています。徳之島のある集落では、仏壇やお墓に備えられていました。

葉と根に血行促進、鎮静作用、抗炎症作用があるとされているようです。それでは民間薬としてどのように使われているか調べてみました。「沖縄の薬草百科」多和田真淳・太田文子共著から、【薬効】①下痢止め②腸炎③盲腸炎④胃腸疾患⑤月経不順⑥腫物の痛み止め⑦かゆみ止め【使用方法】（①②③④⑤⑥⑦）共通－１日分。準備する物…ゲッキツの茎、葉10ｇ、水１ℓ。沸騰させた水１ℓに、ゲッキツの茎、葉を10g入れ、水が半分ほどになるまで煎じ、１日３回に分けて服用する。

奄美群島生物資源WEBデータベースによると、葉は発汗作用があり、カタル、解熱、分娩促進に用いる。葉の煎汁で湿疹やかゆみを洗浄し、月経不順に服用する。その他、水虫、下痢、歯痛、血行促進、瘀血（おけつ）、強壮に用いる。有効成分は、精油のカジネン、アルカロイドを含むとしている。

亜熱帯生物資源データベースの資料。薬用部位→葉、茎、根茎根塊。伝承として、皮膚病、下痢、腸炎、盲腸炎、胃腸疾患、月経不順、局所麻酔薬と併用と言う形で使用、湿疹、リウマチなどの痛み止め、盲腸炎、おでき、かゆみ、歯痛、胃腸疾患など。

東邦大学薬学部の資料では、枝葉→乾燥葉を25度のホワイトリカーに浸けて月橘酒にして、リウマチの鎮痛患部に塗布。料理に使用する。果汁→果実は酸味が強く生食には向かないが、レモン汁の代表に。ジャムにも。葉→カレーの香辛料に。花は→香料に。佃煮。材は家具、細工物に。成分は、枝葉→ジシンドルアルカロイドのユチュクチシン、イソメキソチン、コウルマリンのコウムライン、ムルバニシン、ムルバニジン、イソメキソチン等。花→シトロネロール、オイゲノール、ムライン（精油）。葉→真菌類を抑制する作用。

アジア各地におけるゲッキツ薬用利用を調べてみますと、中国（九里香）葉、枝を煎液にして、胃痛、慢性赤痢、鎮痛、打撲、下痢、腫れ物、皮膚の炎症、真菌性皮膚疾患。根の煎液で、打撲、皮膚の炎症、真菌性皮膚疾患。葉の煎液を収斂剤、抗赤痢、解熱剤としています。

インドネシアやミャンマー、タイでは、根、樹皮を粉末にして化粧品とし、浸液を強壮剤、歯痛に使用する。マレーシアは、葉をサナダムシに効力、ヘルペスにも用います。葉の沈殿物を外用剤に。インドネシアでは、葉の漬液を興奮剤、収斂剤、性感染症用薬剤に配合。焦がした樹皮のオイルを歯痛に、花を化粧品にする。フィリピンでは、葉を浸液で止瀉薬、抗赤痢、葉の煎液で歯痛に用いるようです。

以上、私が知り得た事柄です。成分の面からまだまだ未知の感があります。今後の研究を待ちたいと思います。

## 学術講演会・研修会のご案内

◆4月18日（木）18：30～19：30
【令和６年度 診療報酬改定 Web セミナー / ㈱翔薬】

◆4月19日（金）18：30～20：35
【令和６年度 第１回産業医 Web 研修会 / 日本医師会】

◆5月24日（金）19：00～20：00
【大島郡医師会学術講演会（仮称）/ ヴィアトリス製薬㈱との共催】※予定

◆6月　4日（火）19：00～20：00
【大島郡医師会学術講演会（仮称）/ ノバルティスファーマ㈱との共催】※予定

# 奄美の医療雑話〈63〉

## 胡桃（くるみ）酒を飲んで溶ける話
### ―今昔物語　巻廿八第州九話―

元名瀬市立奄美博物館長　林　蘇喜男

今は昔、腹の中に寸白（すばく）（注）を持つ女がいた。結婚して男の子を産んだ。その子は元服して官職を得て、信濃の守になった。任国での歓迎の宴で着席すると、目の前には胡桃だけを調理した料理が幾種類も並んでいた。これを見た信濃の守は、苦しげに身をよじった。「どうして胡桃だけの料理なのか」と問うと、国の者が「この国の至る所に胡桃の木が生えております。その胡桃を様々に調理してお出ししたのです」とのこと。信濃の守は、もだえ苦しんだが、それを見ていた「国の次官」が「かほどに、胡桃を嫌うのは、もしやこの守は寸白の生まれ変わりに違いない。ひとつ試してみよう」と思い、古酒に胡桃を石濃くすり入れて熱く沸かし、杯とともに守のご前に持ってでた。守が杯を取ると、次官は酒を注ぎいれた。酒はすり入れた胡桃で濁っていた。信濃の守は「この酒は普通と違って白く濁っている。その訳は？」次官は、「この国の初赴任出迎えの宴は三年以上の古酒に胡桃を濃くすり入れてお出しして、守がお召しあがることになっています」と、もっともらしく答えた。これを聞いた守はみるみる真っ青になり震えだした。守は「実は、私は寸白の生まれ変わりである。もう耐えられぬ」というや、さっと水になって流れ失せた。あとには遺体さえ残っていなかった。信濃の守の家臣たちは「これはどうしたことだ」と慌てふためいた。しかし、何ともしようがないので、みな京へ帰っていった。そして事の次第を説明すると、守の妻子や親族たちは「なんと、あの人は寸白の生まれ変わりだったのか」と、初めて知った様子であった。思えば、寸白もこのように人間に生まれ変わることもあるものだ。聞く人はたいそう珍しいと言ってみな笑った。という話である。

（注）寸白＝寄生虫の一種であるサナダムシ。漢方では胡桃が寸白治療に用いられる。

## 編集後記

大島郡医師会だより第101号をお届けします◆今回の医師会だよりの表紙は、副会長の嘉川潤一先生から投稿いただきました。先生は令和４年６月に就任され、稲会長と共に二人三脚で大島郡医師会の運営にご尽力いただいております◆2024年幕開けの元旦に発生した能登半島地震は240名以上の死者と一時約1・4万人の避難生活者が出るという甚大な被害となりました。被災された皆様のご冥福をお祈りしますとともに一日も早い復興を心から願っております◆当会員では大和村診療所所長の小川先生が、JMAT支援チームとして自治体から参加されました。先月の医療活動支援報告会では、参加されたそれぞれの職種の皆さんが被災地での貴重な経験を報告されてる記事が新聞に掲載されてました。また、今回の「医師会だより」にも快く執筆を引き受けていただき有難うございました◆5月26日には鹿児島県総合防災訓練が約10年ぶり（令和２年度はコロナ感染拡大により中止）に奄美市で開催されます。大島郡医師会も「避難所運営訓練」では、健康相談・感染予防対策等、「防災意識啓発訓練」では、避難所、応急救護所においてハイブリット車両による「動くバッテリー」の活用の紹介、「合同災害訓練」では、救護地域においての一次トリアージ等に参加します。有事に備えて実りある訓練が出来るよう準備していきたいと思います◆今年度も当医師会員の先生が医療功労賞を受賞されました。和泊町で開業されております朝戸末男先生、誠におめでとうございます。これからも地域医療の推進と発展に向けて益々ご活躍されることと思っております◆今年度は医療・介護・障害福祉の報酬のトリプル改定の年です。物価・人件費の高騰、労働者人材不足と医療・介護業界を取り巻く環境は大変厳しい状況ですが、医師会病院・虹の丘・臨床検査センター・なぎさ園、共に地域への貢献、地域から頼られる病院・施設運営を心掛けて邁進していきたいと思っております。（T・N）